大伴小だより

10月号

富田林市立大伴小学校　　校長　岩片 啓子
富田林市南大伴町一丁目2番20号　　0721-24-3104

「楽しかった」で終わる修学旅行ではなく、
「学んだ」「仲間とのつながりが深まった」と思えるものに

修学旅行が近づいてきました。子どもたちは、友だちと一緒に過ごす時間を楽しみにしていることと思います。もちろん友だちと一緒に、普段とは違う場所で楽しい時間を過ごすことも修学旅行の大切な一面です。



でも、修学旅行は「友だちと楽しく旅行をする」だけのものではありません。今回の修学旅行では、阪神・淡路大震災について学びます。過去の震災から私たちは何を学び、これから起こるかもしれない災害に、どのように備えていけばよいのか、「防災・減災」について考える機会です。そして、災害から命を守るためには、自分の命は自分で守る「自助」、行政などによる「公助」、地域や周りの人と助け合う「共助」が大切であることも学びます。

もう一つ、修学旅行で大切にしてほしいことがあります。
それは、『仲間を知る』ということです。

- ●いつも一緒にいる友だちだけでなく、これまであまり話したことのなかった友だちのことを知る。(六年間過ごして今更?!…かもしれませんが、まだあまり親しくない友だちはいますよね。)
- ●一緒に考え、支え合い、困っている友だちに声をかける。
- ●自分の思いを、相手のことを考えながら伝える。



そんな経験を重ねることで、学年としてのつながりも強まり、運動会にむけて信頼関係が深まるのです。

小学校生活も残り半年となりました。修学旅行でのひとつひとつの経験を、これから始まる中学校生活へとつないでいってほしいと思います。
一人ひとりが何かを感じ、考え、仲間と共に成長する二日間になることを願っています。